

令和2年度 自己点検評価・学校関係者評価結果公表シート

学校法人 下福島学園 下福島幼稚園

1. 本園の教育目標

快適で安心・安全な教育環境を保障し、幼児の心身の育ちを大切に考えながら、遊びを中心とした教育内容の充実と実践を目指している。また、幼児が幼稚園という集団生活の場で友達と十分に遊ぶことにより、自他の存在に気付き、道徳性・社会性・創造力・助け合いの心と自立する心を身につけて、生きる喜びを味わい、生きぬく力を培っていけるように配慮する。日常保育の中では基本的に、よくみる・よくきく・よく考える・よく手足を動かすことを徹底し、明るくよく遊ぶ子・興味を持ち集中出来る子・絵本の大好きな子・優しく助け合う子の育成をすることを教育目標とする。

2. 令和2年度 重点的に取り組む目標と計画

令和2年度の研究テーマを「新しい生活様式と幼児教育」とした。令和元年度学年末から新型コロナウイルス感染症が流行し、国や大阪府から緊急事態宣言発出と共に休園措置の通知を受けて、当園も令和2年3月・4月・5月と3カ月の休園措置を実施した。新年度が4月から始まらないことと何時になったら再開が出来るのか全く不透明な状況下で、これまでに経験したことがない事態に教職員も不安を抱えて学年末教務をこなしながら新年度の準備にあたった。実際は自宅待機をすることも余儀なくされたが、その期間には教職員一人ひとりが研究テーマを掲げて、5月下旬の園内研修会で発表し、互いの学びにつないだ。コロナ禍として過ごすのではなく、従前の教育・保育の在り方の見直しや諸行事の見直しと可能な行事の展開に向けて内容の充実をはかるにはどうすればよいのかが明確になった。取捨選択をせざるを得ない状況で、最大の教育効果を上げ、状況次第での修正事項を想定しながら園児と保護者に最良の教育提供が出来る目標と計画を掲げて、制約のある中での実践を目指した。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
新幼稚園教育要領の理解と教育理念・教育課程を踏まえた教育実践がなされているかの評価を行う。	新幼稚園教育要領が打ち出されて毎年読み込みをして、担任として担当するクラス経営をどの様に展開するのか、サポート教諭と共に個々の園児へのかかわりと教育展開を協議しつつ、コロナ禍の中であっても教育停滞を招かない配慮と実践を行った。取り分け5歳児は小学校前に「幼稚園で身に着けるべき10の姿」を目指し、園児達同士で園生活を創造していく体制作りと個々の抱える課題克服について園児と教諭とが共通認識をして、教諭は最善の関わりと援助を目指した。3歳児・4歳児も5歳児の最終の姿を目指して各学年で身に着けるべきことを繰り返し指導すると共に園児一人ひとりの個人記録を丁寧に記録しながら日々の援助を慎重に進めた。その結果10カ月の教育日数ではあったが、確実な成果が得られた。
新型コロナウイルス感染症拡大化の中での新しい教育展開の在り方	突然想定外の新型コロナウイルス感染症が流行し、創立68年にして経験をしたことがない新学期から2カ月の全面休園という事態に園児・保護者・教職員が言い知れぬ不安を抱えての年度となった。いつ再開出来るかも不透明な中で「今、何が出来、何をめざすのか、最善最良の教育展開は？」を休園中に教職員で討議し、先ず教育環境で最も重要視すべきことは、教室や園内施設及び園児が使用する玩具類の消毒作業の在り方と継続により、園内からクラスターを発生させない為に薬剤師・看護師指導による園内研修で保健衛生の基礎知識の習得と清掃実践をシュミレーションして、6月1

	<p>日の幼稚園再開を目指した。施設内を万全にして迎えた6月1日。園児と保護者には4月と5月に様々な家庭内で過ごす教材と通知事項を郵送配布したことを各家庭でしっかり受け止め、新しい生活様式を徹底した上での登園となった。大きな混乱もなく、園児と保護者の表情もよく、進級児は3カ月ぶりの登園、新入園児は2カ月遅れの入園となり、入園前の説明会での注意事項を受け容れ、とても協力的な幼稚園再開となり、園児の成長が伺えた。教職員も自身の健康状態に配慮し指導計画を精査して臨み、保護者に非常事態下での教育展開であることに理解を求め一学期期間中は午前中の登園で慎重に進めた。午後保育を望む保護者もいたが、各家庭でも感染リスクを考慮して預かり保育も申し込みを控え、利用者数・利用時間・利用日時も減少し、教職員の負担も軽減された。大半保護者は幼稚園の方針を理解し、2学期以後の教育展開も非常にスムーズに進めることが出来た。</p>
<p>新制度移行について協議検討する。</p>	<p>平成27年度からの新制度も6年目となり、5年の見直しがあるのか見極めて保護者や教職員に説明の上、次の判断を学園理事会及び評議員会にも提案をする予定であったが、大幅な見直しや幼稚園教育の重要性が前面に出されるものでもなく、保護者の大半が幼稚園での教育を望んでの入園希望者が多い現状では、次年度の移行の理解を得るのは難しいという結論に至り、もうしばらく現行のままでもより質の向上を目指すという方向性を見出した。</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>教職員に実施している自己点検評価も定着化し、年間を通しての学級経営と担任及びサポート教諭にとって自己の指導の見直しと教育力の向上を目指すことについての認識が相当浸透し、相互間でも認め合いつつ次を目指しての意見交換も進んでいる。また、学校評価委員による教育点検も一定のチェック項目を設定し、丁寧な見取りと評価がなされている。そして、学校評価委員会で話し合われた内容や幼稚園への意見提示についても記録の取り方も年々洗練され誰が見てもわかりやすく、次への課題も明記されており、客観性を帯びた細やかな記録になっている。幼稚園が目指すものが正確に伝達出来ており、日々の教育内容の実践についても冷静な見取りをし、幼稚園と家庭の連携をしながら子ども中心の幼稚園教育の展開が可能になっている。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策をしながらの教育実践であったが、非常時と言える環境下でも幼稚園と家庭の連携が大変良好に展開出来、年度初めの休園があったとはいえ、かなり内容の濃い10カ月間の園活動であったとの評価が得られた。今後ワクチン接種が進み幾分状況の改善が期待出来そうだが、全く従前状態に戻るとは言い難く、今年度の経験をいかして新しい展開をしていく努力が求められる。このようなことは教職員も理解しながら厳しい教育環境下にあっても園児が創造的に生活できる配慮をし、園児が自立して園生活に生き生きと参加出来た。状況改善を目指しつつ新しい幼児教育の在り方を今後も目指していく意気込みが教職員に感じられた。</p>

5. 今後（令和3年度）取り組むべき課題

課 題	具 体 的 な 取 り 組 み 方 法
<p>年度末には教職員一人ひとりも自己点検評価と教育展開全般を互いに相互評価及び総合評価を行って次年度の取り組むべき課題を考えるが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症というこれまでに経験をしたことがない感</p>	<p>想定外の非常事態というべき状況の中でも保護者の理解と教職員の努力で年度を閉じることが出来た。一年間の評価については保護者からも高評価が得られ、園児一人ひとりが良く成長しているように見受けられる。この状態を次年度にどの様に継続していくか教職員にとっては課題となった。新しい生活様式と新しい幼児教育の展開に悩んだ一年ではあったが、新学期早々の休園期</p>

<p>染症の拡大で、出だしから予定通りのことが進まない一年であった。しかし、その不透明な日々の中にも園児と教職員、そして保護者と教職員の新たな関係性が築かれた。新型コロナウイルス感染症問題は大変手強くワクチン接種が進んでも直ぐに終息に向かうとは考え難く次年度も油断することなく、先ず心身の健康を第一とし、再度「新しい生活様式と幼児教育」というテーマを掲げ、本年度を踏まえながら次の展開を目指す。</p>	<p>間を無駄にすることなく、課題意識をもって自己研鑽をはかったのが功を奏して、日々の教育実践にしっかり活かされていたように思える。先が不透明な状況の中、また一向に終息に向かわない新型コロナウイルス感染症問題、今後もこの状況が直ぐに打開出来るとは言い難い。例え予想外の好転が見られても油断することなく、どの様な状況下でもこの度の経験を活かして、従前の当園における教育を精査・分析をしながら新しい教育展開を目指したい。コロナ禍と受け取るのではなく教育方法の転換と位置づけ、その考え方から生まれてくる新たな方針を保護者にも理解が得られるように丁寧に説明をし、園児には細やかな子ども側に立った援助と支援がどうあるべきなのかを教職員及び保護者と意見交換をして幼稚園教育を進めたい。恐らく教職員一人ひとりも園児支援だけでなく、保護者に寄り添った子育て支援にまで配慮していくテーマを設けて話し合いを進める必要があるという認識は一致していると見受けられ、今後意見交換をしながら園児・保護者・教職員が共に育つ教育の実現に向かって展開したいと考えている。そして、新制度の円熟が見られない中で私学助成園として教育理念の実行力が問われることも念頭に置いて幼稚園における学校教育を明確にした取り組みの継続を行っていききたい。</p>
---	--

6. 学校関係者の評価

<p>例年であれば定期的に学校関係者による会議を開催出来ていたが、4月・5月が全くの休園で年間の計画についても入念に協議し進めることが可能であったが、一学期も分散登園や変則的な行事展開で予定通りの評価会の設定が困難であった。しかし、教職員の賢明な努力によってコロナ禍と言われながらも、従来の教育展開の見直しを丁寧にしながら最良の教育提供が出来る配慮をした。その結果保護者からは現状を理解しつつ賢明な努力を評価する声が多く寄せられた。それらを受けて関係者による2学期と3学期の評価会でも高く評価する声が多く、次年度も新型コロナウイルス感染症が終息しないであろうと想定しながら令和2年度の試みの振り返りと新たな展開に期待する意見が寄せられた。保護者及び関係者による評価を真摯に受け止め、次年度には更なる教育の質の向上と安定的な経営を目指したい。</p>
--

7. 財務状況

<p>令和2年度の会計証票伝票は、全て正確に整理されており、年2回の公認会計士監査では指摘事項なしと評価された。また、当学園の監事監査でも良好な会計処理と適切な会計処理と経営状況の安定が見られると評価された。令和2年度は新型コロナウイルス感染症のこともあるが、当初から特別な大規模修繕計画が無かったこと、今後全室の空調機等の老朽化による出費に備えての準備金積立として教育・施設充実費徴収を開始したことにより、必要経費の支出はあったが、令和2年度も無借金で良好な経営状況であった。</p>
